

# Slovenia Monthly July 2020

## スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2020年8月7日



### ～7月の主なポイント～

- 内政：** 連立与党、野党国民党及び少数民族議員と協力協定に署名  
ホイス内相の辞任、再考の可能性
- 外政：** ドイツ外相がスロベニアを訪問
- 経済：** 国民議会、「コロナ・パッケージ」第4弾を可決
- 治安：** 政府、集会人数を10人までに制限
- 社会：** 年金生活者等のバス・鉄道都市間交通利用が乗り放題に

## 政治

### 【内政】

#### ●ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣、辞任はしない意向【1日】

新型コロナウイルスに関する人工呼吸器調達に係る疑惑で警察の家宅捜索を受けたポチヴァルシェク経済開発・技術大臣は、1日、本件に関するコメントを発表した。同大臣は、ヤンシャ首相から大臣職の職務継続に関して完全な支持を得ており、大臣を辞任するつもりはないと述べた。また、同大臣は、家宅捜索に関し、警察捜査に協力して全ての証拠を提出したと明かし、警察が捜査を建設的かつ迅速に行うことを期待すると述べた一方、この捜査はあらゆる圧力、政治的工作等の結果であり、捜査を受けたこと自体に驚きはないとして、新型コロナウイルス流行期間中に人々の命を救うために下した決断は正しいものであり、本件につき謝罪するつもりはないと述べた。

#### ●連立与党が野党国民党及び少数民族議員と協力協定に署名【3日】

3日、連立与党4党は、野党の国民党(SNS)及び少数民族議員と協力協定を締結した。同協定は2020年から2022年までの法案及び各種文書採択等における協力に関するもの。また、本協力協定締結後、

スロベニア政府との少数民族議員との間の覚書にも署名がなされた。協定及び覚書署名に際し、ヤンシャ首相は、このような不安定な時期において、本協定及び覚書は安定をもたらす重要な文書であると指摘し、新型コロナウイルス危機の中で協力を決断した各署名者の決意の重要性を強調した。また、ヤンシャ首相は、政府と少数民族議員との間の覚書については、非現実的な約束ではなく、具体的な案件に関する協力を盛り込んだものであると述べた。



(Photo: Prime Minister's Office)

### ●ホイス内相の辞任再考の可能性【12日】

12日、ホイス内相は、出演したテレビ番組において、ヤンシャ首相に大臣辞任を翻意するよう説得されたとして、辞任の決意につき再考すると述べた。同内相は、今後、本件につきじっくりと考えると述べ、いずれにしても(ホイス内相の辞任表明前の6月上旬に、ナチス賛美として批判に晒されているクロアチア人歌手のコンサートを内務省が許可したこと、内務省の反政府抗議集会参加者への振る舞い及びEUの難民再配置計画を拒否するホイス内相の姿勢等を問題視した)野党が提出した同大臣不信任動議が議会で議論されるまでは結論を出さない旨述べた。ホイス内相は、6月30日、新型コロナウイルスに係る人工呼吸器調達に係る疑惑に関して、ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣が警察当局による家宅捜索を受けたことに対し、警察当局内の一部の勢力が家宅捜索を実施したことに対する責任をとるとしてヤンシャ首相に辞表を提出していたが、7月10日、ヤンシャ首相はホイス内相から提出のあった辞表を未だ開封していない旨及びホイス内相に対して辞任を撤回するよう要請した旨を明らかにしていた。



(Photo: Tamino Petelinšek/STA)

### 【外政】

### ●ドイツ外相のスロベニア訪問【3日】

3日、マース独外相がスロベニアを訪問した。ロガル外相は、ブルドーにおいてマース外相を迎え、両外相はビデオ会議形式で参加したポルトガルのサントス・シルヴァ外相とともに、今後18か月のEU議長国であるドイツ、ポルトガル、スロベニアの3か国外相会談を行った。3者外相会談の主な話題は、2020年7月1日から同年12月30日にEU議長国を務めるドイツの議長国就任、及び、スロベニアの議長国任期が終了する2021年12月までの、ドイツ、ポルトガル及びスロベニアの3か国のEU議長国任期における取組であった。また、3者は、新型コロナウイルスの状況下での会議開催方法についても議論し、定期的に調整を行っていくことで一致したほか、ドイツの議長国期間中にEUが直面する危機管理、多年度財政枠組み及び復興基金、英国との今後の関係、移民・難民流入問題、法の支配の遵守、欧州の安全保障等の各種課題についても意見交換を行った。

同日、マース独外相はヤンシャ首相を表敬し、両者は、現在の新型コロナウイルスを巡る状況を中心に意見交換を行った。ヤンシャ首相は、国内及び近隣諸国の状況並びにスロベニア政府の施策について説明した。一方、マース外相は、ドイツのEU議長国任期中の2つの大きな課題は、多年度財政枠組みと復興基金に関する早期の合意及びドイツのEU議長国任期中に移行期間終了を迎えるブレグジット後の(EU・英国間の自由貿易に関する)合意であると述べた。ヤンシャ首相は、ドイツが挙げる優先課題に支持を表明し、2008年にスロベニアが初めてEU議長国を務めた際にもドイツ及びポルトガルと非常に良好で緊密な協力を行ったと述べ、この3か国が再び緊密な協力を行えることを確信していると述べた。



(Photo: Ministry of Foreign Affairs)

### ●ロガル外相、ル・ドリアン仏外相と電話会談【10日】

10日、ロガル外相は、ル・ドリアン仏欧州・外務相と電話会談を実施し、ル・ドリアン大臣の再任に祝意を表するとともに、スロベニアとフランスとの戦略的関係を深化させることへの関心を強調した。また、両者は、2021年後期及び2022年前期にスロベニア及びフランスがそれぞれEU議長国に就任することを踏まえ、両国間の政治対話の強化を求めたほか、新型コロナウイルス感染症を受けて、フランスが6月初めより導入している接触確認アプリに焦点を当てて、両国の医療危機対策に関する意見交換を行った。

### ●ヤンシャ首相、クロアチア首相と会談【11日】

11日、ヤンシャ首相は、スロベニア南東部オトツェツにおいて、プレンコビッチ・クロアチア首相と会談した。共同記者会見冒頭、ヤンシャ首相は、プレンコビッチ・クロアチア首相の再選に対して祝意を伝達し、直前の招待にも関わらず、今回スロベニアを訪問した同首相に対して感謝の意を述べた。また、ヤンシャ首相は、会合の目的は、これまでの両国における新型コロナウイルス対策及び今後の観光シーズンにおいて通常の生活に戻すために導入すべき施策について協議するためであったと述べ、今後、両首相が両国の疫学専門家を中心に、日々の感染状況について密に連絡を取り合うことで一致したと述べた。また、同首相は、クロアチアがEU対外国境において講じている対策及び新型コロナウイルス接触確認アプリの導入に向けた同国の準備に関して歓迎の意を表した。

### ●ロガル外相、中欧5か国外相会合に出席【14日】

14日、ロガル外相は、ハンガリーのブダペストにおいて開催された中欧5か国外相会合に、オーストリア、チェコ、ハンガリー、スロバキアの外相と共に出席した。この中欧国5か国の枠組は、新型コロナウイルス危機における対応を協議するため本年6月に設置されたもので、今次会合は、シーヤールト・ハンガリー外相の主催により、新型コロナウイルス感染症に関する対策、具体的には第3国(EU域外)からの入国制限緩和、復興基金及び多年度財政枠組みを中心に意見交換が行われた。ロガル外相は、同会合において9月15日に中欧5か国会合をスロベニアで開催することを提案した。

### ●保健省、WHOと協力合意に署名【17日】

17日、ガンタル保健大臣は、スロベニア保健省と世界保健機関(WHO)欧州地域事務局の間の2020年-21年の2年間の協力合意に署名した。同合意は、今後2年間の協力優先事項を定めたもので、2年の間に状況やニーズの変化に合わせて優先事項の変更や修正が可能。協力合意には協力優先分野とし

て、医療制度の強化及び公衆衛生の機能、感染症及び非感染症疾患の管理、医薬品・ワクチン及びその他の医療技術へのアクセス及びその安全性及び質、医療の平等性、社会的要因、保健分野への投資、ジェンダーの平等、人権、ヘルス・リテラシー、国際ネットワークにおける政府の活動、官・民・非政府機関の連携、2021年のスロベニアのEU議長国就任に関連した協力等が含まれている。

### ●スロベニアのOECD加盟10周年【20日】

ブルドー国際会議場において、スロベニアの経済協力開発機構(OECD)加盟10周年を記念するフォーラムが開催された。同フォーラムにおいて、ロガル外相は、過去10年間における成果として、一人当たりのGDP増加、インターネット普及、行政の近代化、税制及び教育分野等における発展を挙げ、また、AIやブロックチェーン技術の開発や新型コロナウイルスへの対応におけるグッドプラクティスを強調した。また、ロガル外相は、OECDによる支援として、経済政策の立案、構造改革、人口構成課題への取組み、スロベニアの開発協力システムの開発等について言及し、「スロベニアは、OECD加盟により、多くの目標を達成したが、今後も更に発展し続ける」と述べた。同フォーラムにビデオ方式で参加したグリアOECD事務総長は、「スロベニアは、OECD加盟以降、社会経済的に大きく発展し、また新型コロナウイルス感染症及びその経済的影響を抑えるため、賞賛に値する施策を実施した。今後は、経済復興を支援しつつ、高齢化を含む長期的な課題に取り組むことが重要である」とコメントした。



(Photo: Nebojša Tejić/STA)

### ●ヤンシャ首相、特別欧州理事会に出席【21日】

ヤンシャ首相は、ブリュッセルで行われた特別欧州理事会に出席した。同理事会は17日~21日の4日間に渡り行われ、数日間の交渉を経て、EU首脳は次期多年度財政枠組み(MFF)及び復興基金に関する合意に達した。同会合に出席したヤンシャ首相は、「英国の離脱後、EUにおけるパワーバランスは変化

しつつあり、そのために、各国が合意するまでに4日間という長い期間を要した」と述べた上で、「MFF及び復興基金に関する合意は、特に最初の3年間における復興及び経済発展のために十分な資金が確保されたという点において大きな成果である」として、歓迎の意を表した。さらに、ヤンシャ首相は、この合意により新型コロナウイルスに対する頑強な対応が可能となり、MFF、復興基金ともに公正な分配を達成したとコメントした。また、ヤンシャ首相は、協議の最終段階において、欧州理事会及び欧州委が各国の提案を考慮したとして評価し、EU資金のスロベニアへの割り当てに関し、スロベニアが主要な戦略的目標を達成した旨を強調した。今回の合意により、スロベニアは今後7年間の期間で、合計105億ユーロのEU資金を獲得する資格を有する。

### ●パホル大統領、スロバキアを訪問【22日】

22日、パホル大統領はスロバキアを訪問し、チャプトヴァー大統領と会談を行った。両者は、新型コロナウイルス対策について意見交換を行い、特別欧州理事会で合意に達したEUの復興計画を歓迎した。パホル大統領は、この合意について、EU27カ国が団結してコロナ後の復興に取り組むことができることを証明する歴史的なものであると述べた。両者はまた、良好な二国間関係を確認すると同時に、環境保護に向けた両国間の取組について意見交換を行い、チャプトヴァー大統領は、スロバキアは2050年の炭素中立を目指しており、スロベニアの同分野における経験からも学びつつ、協力していきたいと述べた。なお、会談後、両者は、グリーン技術に特化したビジネスフォーラムの開会式に出席した。

### ●クロアチア外務・欧州問題相のスロベニア訪問【28日】

28日、クロアチアのグルリッチ＝ラドマン外務・欧州問題相がスロベニアを訪問し、ロガル外相と会談を行った。両者は、新型コロナウイルス対応に関する意見交換を行い、休暇シーズンで国境間の人の往来が増加する中でより緊密な協力を行っていくことで一致した。また、ロガル外相は、新型コロナウイルスにより接触が制限され、柔軟性、創意工夫がEU議長国に求められた困難な時期に、クロアチアが議長国を成功裏に務めたことに対し、祝意を伝達したほか、スロベニアのEU議長国任期における優先課題につき説明した。その他、両者はEU拡大、三海域協カイニシアティブの枠組みにおける協力、二国間の未解決の問題等に関して意見交換を行った。

## 経済

### 【経済一般、指標・統計】

#### ●欧州委員会による経済見通し【7日】

欧州委員会は、最新の経済見通しを発表した。これによると、本年のスロベニアの経済成長はマイナス7.0%と予測されており、春季に発表された見通しから修正はなかった。一方、2021年については、6.1%のプラス成長とされており、春季に発表された数値から0.6%下方修正された形となった。

#### ●スロベニアのSDGs達成度は12位【8日】

ケンブリッジ大学、ベルステルマン財団、持続可能な開発ソリューション・ネットワーク等が共同で作成する、持続可能な開発目標の達成度に関する報告書の2020年版が発表された。同報告書によると、スロベニアの達成指数は79.8ポイントで、対象166国・地域中で12位となった。スロベニアは、目標1の「No poverty」及び目標16の「Peace, Justice and Strong Institutions」で目標達成との評価がなされた。一方、目標2「Zero Hunger」、目標12「Responsible Consumption and Production」、目標13「Climate Action」、目標14「Life Below Water」については主要な課題が残っているとされた。なお、達成度に関する全体順位では、1位スウェーデン、2位デンマーク、3位フィンランド、4位フランス、5位ドイツとなり、上位を欧州諸国が占める形となった。なお、日本は79.2ポイントのスコアで17位となった。



#### スロベニアの達成度評価

緑は「目標達成」、黄は「課題が残っている」、オレンジは「重要な課題が残っている」、赤は「主要な課題が残っている」。

(出典: Sustainable Development Report 2020)

#### ●国民議会、「コロナ・パッケージ」第4弾を可決【9日】

9日、国民議会は、新型コロナウイルス危機の経済に与える影響を緩和するための経済措置「コロナ・パッケージ」の第4弾として、3億4千万ユーロ規模の追加支援及び接触確認アプリ導入に係る関連法案を可決した。主な支援内容は以下のとおり。

##### (1) 一時解雇に対する助成期間の延長

新型コロナウイルス経済対策において本年6月末まで適用されていた一時解雇に関する助成期間を7月末まで延長し、その後も新たな政令公布で最長202

0年9月末まで延長可能とする(注:7月23日、政府は、本助成事業を8月末まで延長)。助成の内容及び条件はこれまでと変わらず、売上減少等の条件を満たした場合、一時解雇された従業員は賃金の80%を受け取る権利があり、国がその賃金の全額及び関連の社会保険料を負担する。

#### (2) 接触確認アプリの導入

新型コロナウイルス感染症の拡大予防のため、接触確認アプリを導入する。同アプリは、無償で匿名での利用とする。

#### (3) 社会福祉機関への補助

今後2年間において、政府は、介護施設及びを中心とした公的社会福祉機関における人員増強のため追加の補助金3100万ユーロを支出する。

#### (4) 観光促進

国内の観光促進を目的としてスロベニアの永住者を対象として発行されている観光クーポンに関し、同クーポンの使用可能な施設の範囲を拡大し、観光シーズンのみ営業する施設でも使用可能とする。

### 【企業、産業の動向】

#### ●車の販売台数、回復傾向【2日】

スロベニア商工会議所は、新規車両の登録件数に関する統計を発表した。それによると、本年1月から6月の間に登録された新車は31,741台で、前年同期比32.55%減と大幅な落ち込みが見られたが、6月に限ると登録車両数は7,231台で前年比7.27%減と回復傾向にあることが明らかになった。メーカー別で見ると、最も人気があったのはルノー、次いでフォルクスワーゲン、シュコダの順となっており、車両別で見ると、クリオ(ルノー)が最も人気があり、次いでティグアン(フォルクスワーゲン)、キャプチャー(ルノー)の順であった。

#### ●住友ゴム工業子会社ロンストロフ社が記者会見【8日】

8日、住友ゴム工業の子会社ロンストロフ社は、スロベニアにおける事業展開について記者会見を実施した。同記者会見において、本年1月に生産開始したリュブリャナ市南部に位置するロガテツ工場は、ヨーロッパ全域で生産を拡大するための優れた出発点である旨紹介され、(テレビ形式で参加した)ロンストロフ社の親企業であり日本の多国籍企業である住友ゴム工業の原田直典執行役員は、同社は生産拡大に理想的な場所としてロガテツ市を選択した旨、また、1万5千平方メートルの施設は、住友ゴム工業にとって医薬品分野で最大の工場になりつつあると述べた。同工場では、年間約600万個の製品が生産される予定。現時点での生産能力は20%程度で、年末までに30%に増強される。また、ロンストロフAG(スイス)のモーリス・ハサニCEOは、今後、新しい製

造ラインと追加の機械も導入予定であり、現在の従業員数は約60人であるが、今後3年間で最大150人の従業員を採用する予定と述べた。また、新型コロナウイルス感染症は、同社の生産に大きな影響は与えておらず、本年の事業目標は達成される見込みであると付け加えた。同工場への投資総額は4400万ユーロ。

#### ●ゴレニェ社、R&Dセンターを設置【8日】

中国企業ハイセンス社子会社のゴレニェ社は、ハイセンスグループ全体のグローバルR&Dセンターをヴェレニェ市に設置することを決定した旨発表した。同R&Dセンターでは、米国市場向けの製品プラットフォームの開発が中心となり、主に調理器具と食器洗浄機に関する研究開発活動が行われる予定。ペチュニク・ゴレニェ社R&D担当副社長は、「親会社にも認められたゴレニェ社の研究開発チームの能力の高さを誇りに思う。今後、ゴレニェ社は、ハイセンスグループの企業として、グローバルな取組に参加することで、より多くの新たな機会がもたらされる。将来的には、若手の技術系人材の発掘も行うこととなるであろう」と述べた。

#### ●環境・空間計画大臣、クルシュコ原発第二原子炉建設に前向きな発言【9日】

9日、ブルドーで開催されたシンポジウム「グリーン・エネルギー・サミット」にヴィズヤク環境・空間計画大臣が出席した。この席において、同大臣は、「新型コロナウイルスの流行は、国境を閉鎖した際に如何にスロベニアが脆弱であるかを明らかにした。スロベニアは、中欧における地理的利便性を活用し、またその位置に頼ってきたが、一方で国境閉鎖はこの戦略が常に最善であるとは言えないということを示した」と述べた上で、エネルギーの自給自足を確保するために現実的な計画が必要であり、炭素中立に向けた長期的戦略文書は、今後数ヶ月以内に議論される予定であると述べた。同大臣は、同戦略文書では、サバ川下流における新規水力発電所の建設を含め河川の一層の活用も視野に入れていると述べたほか、クルシュコ原発第二原子炉なしでは、炭素中立を達成することはできないと確信しており、戦略文書草案では、大型原子炉の建設または複数の小型モジュール炉(SMR)の建設という2つの選択肢を検討しているとして、スロベニアは今後も原子力発電を行っていく予定であると述べた。

#### ●クルシュコ原発に関するスロベニア・クロアチア間政府合同委員会【12日】

14日、スロベニア・クロアチアが共同保有するクルシュコ原発に関する二国間政府合同委員会がクロアチアのザグレブで開催され、両国はクルシュコ原発の

廃炉及び放射性廃棄物の扱いに係る改訂プログラムを承認した。同改訂プログラムには、クルシュコ原発の耐用年数を、当初閉鎖を予定していた2023年から20年延長すること、両国がそれぞれ放射性廃棄物貯蔵施設を建設すること等が盛り込まれている。ヴルトヴェツ・インフラ大臣は、「両国がついに二国間合意の約束事項を満たし、第3次改訂プログラムを承認したことを喜ばしく思う。同プログラムはクルシュコ原発の安全で優れた稼働を維持するために極めて重要なものである」と述べた。また、クロアチアのチョリッチ環境・エネルギー大臣も同様に「この長期間に渡るプロセスに終止符を打てたことを嬉しく思う」と歓迎する発言を行った。スロベニアはクルシュコ原発近郊のヴルビナに放射線廃棄物を貯蔵予定で、すでに同計画は進行中であり、また、クロアチアは2024年までにボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)との国境付近のチェルケゾヴァツに貯蔵施設を建設予定。なお、今回の二国間政府合同委員会は2021年前半にスロベニアで開催される予定となっている。

### ●ゴレニェ社、業績向上【14日】

中国企業ハイセンス社子会社のゴレニェ社は、同社の業績が向上し、6月に本年度で初めて黒字を記録した旨のプレスリリースを発表した。同社は、過去数週間にわたり、8月～10月分の多額の注文を受注したとして、これは事業強化、新型コロナウイルス流行により生じた状況への適応、業績向上のために経営陣が執った迅速な措置の結果であると強調した。また、同プレスリリースでは、ゴレニェ社経営陣は製造部門のビジネス環境の変化を受け、労働の効率性向上のためにソフト・メソッドを取ることを決定したと発表した。各報道機関は、この「ソフト・メソッド」との表現に関し、ゴレニェ社が予定していた従業員の解雇を実施せずに(早期退職等の励行等の手段により)人員削減を行うものであり、同社労働組合からも歓迎の声が上がっている旨報じている。

## 新型コロナウイルス関連情報

### ●7月末時点におけるスロベニア国内の新型コロナウイルスの感染状況【30日】

7月30日時点において、スロベニア国内で新型コロナウイルスへの感染が確認されている人数は計2139名で、死者は計118名となっている。スロベニア国立公衆衛生研究所が発表している30日時点での地域別感染者は以下となっている。

地域	感染者数
スロベニア中心部	574
ドレンスカ・ベラクライナ地方	176
サヴィンスカ地方	380
ポドラウスカ地方	174
ゴレンスカ地方	142
ポムルスカ地方	221
オバルノ・クラシュカ地方	61
ゴリシュカ地方	70
コロシュカ地方	89
プリモルスコ・トランスカ地方	80
ポサウスカ地方	28
ザサウスカ地方	123
その他調査中	21

### ●政府、集会人数を10人までに制限【8日】

政府は、国内の感染拡大予防対策強化のため、公共の場における集会が開催可能な人数を、50名から10名に再度引き下げた。なお、例外的に、最大50人まで集会が認められる場合もあるが、その際、主催者は次の情報を含む出席者のリストを保持する必要があるとされている。

- (1)参加者の氏名、住所、連絡先の電話番号
- (2)集会場所(住所、屋内か屋外かの情報)
- (3)集会時刻(開始と終了の日時)

### ●スロベニアにおける接触確認アプリの検討状況【13日、21日】

13日、コリトニク公共行政大臣は、記者会見において、ドイツのオープンソース化されたアプリを活用するスロベニアの新型コロナウイルス接触確認アプリに関し、アプリ仕様は義務ではなく任意とする旨発表した。当初、政府は新型コロナウイルスの感染者及び自主隔離をする者に対しては、アプリのインストールの義務化を目指していたが、それをひとまず断念する形となった。

また、21日、政府は、ドイツモデルのアプリを適合するコントラクターを選定したと発表した。同アプリは、ユーザーが過去14日間に新型コロナウイルス感染者と接触があったかにつき通知することが目的であり、感染者は、国立公衆衛生研究所により割り振られる

コードを基に情報を自身のデバイスに入力する。2人のユーザーが接触すると、スマートフォンが無作為に暗号化されたコードを自動的に交換する。コードが携帯電話に送る情報は、2人が接触したという事実、接触期間及び(接触した際の)両者の距離のみであり、接触者の名前や接触場所については明かされない。一定期間後、同情報は自動的に削除されるとのこと。政府の発表によると、遅くとも7月31日まではアップルストア及びグーグルプレイに対する申請がなされ、両社による検査後、8月中旬にはこれらのサイトでアプリのダウンロードが可能となる予定。

### ●政府、全ての店舗に対する日曜日及び祝日の営業を許可【23日】

政府は、本年3月より続けていた日曜日及び祝日の店舗営業を禁止する措置を撤回した。これまでは日曜日及び祝日にはサービス業を除き、ガソリンスタンド及び薬局以外の店舗の営業は認められていなかったが、政令撤回により、今後は全ての店舗が日曜日及び休日に営業することが許可される。また、これと同時に、食料品店等の日中の最低限の営業時間に関する規則も撤廃された。

### 軍事・治安情勢・危険情報

### ●内務副大臣、不法移民増加を警戒【9日】

警察当局は不法移民件数に係る最新の統計値を発表した。それによると、本年1月～6月に記録された不法越境件数は4993件で、前年同期比で12.4%減となった。他方、カングレル内務副大臣によると、新型コロナウイルスの関係で国境を閉鎖していた時期があり、その間の不法越境件数は激減していたため、実際にはこの数字は3か月分の不法越境件数であるとして、その後は不法移民が再び増加傾向にある旨警告した。

### 発見！スロベニア

## スロベニアブランドが ベスト・オレンジワインに選出

ワインの世界的権威とされる英国のワイン雑誌「Decanter」の7月号は、オレンジワインに精通するワイン専門家サイモン・J・ウルフ氏が選ぶ世界トップ30のオレンジワイン・ランキングを発表しました。



オレンジワインとは、一般的には白ぶどうを使用して、赤ワインの製法で造られたワインを意味し、サイモン・J・ウルフ氏が、厳選されたオレンジワインの中から各ワインを採点。スロベニアのワイナリー「ゾリヤン(Zorjan)」の「Zorjan Dolium Muscat Ottonel」は、95ポイントという高得点を獲得し、同得点だったオーストリアの「Graue Freyheit(生産者:Heinrich)」と共に、見事ベスト・オレンジワインに選ばれました。

また、スロベニアのワイナリー「ブラジッチ(Blažič)」の「Rebula selekcija」も94ポイントを獲得し、第3位にランクインしました。



(左から2番目が「Zorjan Dolium Muscat Ottonel」、  
右から2番目が「Rebula selekcija」)

世界的権威も認めたスロベニアのオレンジワイン、一度試してみたいはかがでしょう。

(写真: [www.decanter.com](http://www.decanter.com))

## 社会・文化・スポーツ

### ●年金生活者等のバス・鉄道都市間交通利用が乗り放題に【1日】

昨年10月に国民議会において満場一致で可決された改正交通法が7月1日より施行された。これにより、年金生活者、障がい者及び退役軍人に対して、バス及び鉄道の都市間交通が乗り放題となる権利が付与された。無料乗車パスの価格は年間3ユーロで、事前に申請が必要となる。インフラ省は、新型コロナウイルス感染の危険を避けるため、郵送またはオンラインでの申請を推奨している。

### ●世界パスポートランキング、スロベニアは12位【8日】

英国のコンサルティング会社「ヘンリー・パートナーズ」が実施した各国のパスポートに関する調査結果が発表された。同ランキングは査証無しに入国できる国の数を基に算出されたもので、スロベニア旅券保持者は査証無しで入国できる国・地域の数が180か国で、アイスランド、ラトビアと並び12位にランクインした。同ランキングの首位は191か国・地域に査証無しで入国が可能な日本国旅券で、2位がシンガポール(190)、同率3位がドイツと韓国(189)となっており、最下位はアフガニスタン(26)。

### ●スロベニア人ウルトラサイクリストが世界新記録を達成【27日】

スロベニア人のウルトラサイクリストのマルコ・バロフ選手が、自転車による1000kmのタイムトライアルにおいて、28時間50分14秒で走破し、世界新記録を達成した。また、同選手は、道中、100km地点、200km地点、300km地点の通過タイムにおいても最速記録を達成した。なお、24時間での最長走行距離に関しては、今回バロフ選手の記録は865.3kmで、世界記録である896.2kmを更新することはできなかった。

## 発見！スロベニア

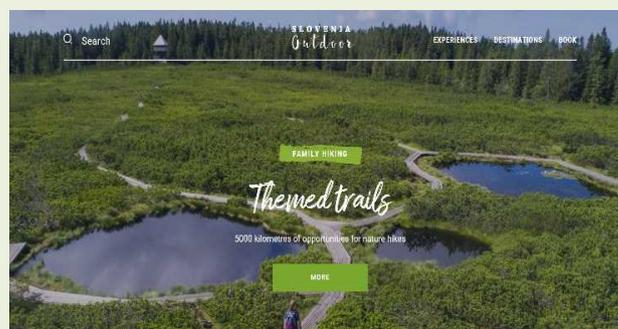
### スロベニアの アウトドアの魅力紹介サイト

先月号(2020年6月号)で、スロベニアの食の情報そして宿泊施設予約に関するサイトを取り上げましたが、今回は、スロベニアのアウトドアの魅力を紹介するサイトをご紹介します。



7月21日、スロベニア政府観光局は、スロベニア国内のアウトドア・アクティビティ等を紹介するサイト「Slovenia Outdoor」の開設を発表しました。このサイトは、ハイキング、サイクリング、登山、ウィンタースポーツなど、スロベニア国内各地で楽しむことができる様々なアクティビティやアウトドア体験を紹介しています。

政府観光局は、「観光客は団体観光を避け、各個人にカスタマイズされ、健康維持にも役立つアウトドア体験を重視する傾向が強まっている」とサイト開設の理由を挙げ、「スロベニアは安全で自然豊かな国であり、団体旅行から離れてユニークな体験を提供できる」とスロベニアのアウトドアをアピールしました。



([www.slovenia-outdoor.com/en](http://www.slovenia-outdoor.com/en))

## スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282、Fax: +386-1-251-1822、Email: [info@s2.mofa.go.jp](mailto:info@s2.mofa.go.jp)

Web: [http://www.si.emb-japan.go.jp/website\\_jp/index\\_j.html](http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html)

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

[info@s2.mofa.go.jp](mailto:info@s2.mofa.go.jp)

### ★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

### ★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧ください。

[http://www.si.emb-japan.go.jp/Living\\_in\\_Japan.html](http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html)

## 【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●新型コロナウイルス: 引き続き最新情報を入手し、感染予防に努めてください。

## 【参考情報】

### 1. 外務省海外安全ホームページ

本サイトでは、各国・地域での新型コロナウイルスの発生状況、新型コロナウイルス(日本からの渡航者・日本人に対する各国・地域の入国制限措置及び入国・入域後の行動制限)等の情報を掲載しています。

<https://www.anzen.mofa.go.jp/>

### 2. たびレジ簡易登録

本サービスは、メールアドレスとメール配信を希望する国・地域を選択するだけで、当該在外公館から領事メールを受信することができます。ぜひご活用下さい。

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/simple/register>

### 3. スロベニア国立公衆衛生局は、国内状況や感染予防の方法等について公開しています。

<https://www.nijz.si>

(主にスロベニア語)

### 4. スロベニア政府が、新型コロナウイルスに関する特設サイトを開設しました。コロナウイルスに関連した保健省の特設電話番号はこちらに掲載されています。

<https://www.gov.si/en/topics/coronavirus-disease-covid-19/>

### 5. 新型コロナウイルス感染症に備えて ～一人ひとりができる対策を知っておこう～(首相官邸)

<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/coronavirus.html>

### 6. 新型コロナウイルス感染症に関する情報について(厚生労働省)

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html)

### 7. リュブリャナ空港ホームページ

<https://www.fraport-slovenija.si/en/Main>

8. スロベニア政府の下記のツイッターアカウント等で、随時情報発信が行われておりますので、こちらをご確認ください。

- 政府(英語) : <https://twitter.com/govslovenia>
- 政府(スロベニア語) : <https://twitter.com/vladars>  
(英語版と若干内容が異なります。)
- 外務省 : <https://twitter.com/mzzrs>  
(主にスロベニア語)
- 保健省 : <https://twitter.com/minzdravje>  
(主にスロベニア語)

**【広報文化班からのお知らせ】**

- 最新情報は、当館フェイスブックでチェック！

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia/>